

最新鋭の装置採用

双葉中央アスコン 破砕中間処理施設

双葉住コン・大林道路JVは、福島県双葉町の「双葉中央アスコン」の破砕中間処理施設の竣工式を開いた。写真。最新鋭の装置を採用し、製品中の異物除去に対しては従来標準的に装備されている除鉄機に加えて空気吸引除去装置を導入。製品の品質向上や作業の大幅な削減、安全性の向上を実現している。復興工事で発生したがれき類を再生資材とする事業に取り組み、初年度は約2万トンの廃材受け入れを目標とする。

1時間当たり100トンの処理能力があるクラッシングユニットを備えた施設で、竣工によって2018年9月に双葉町と締結した企業立地協定を契機とした「双葉中央アスコン」建設工事はすべて完了し、本格的な稼働開始を迎えた。竣工式には川中茂双葉住コン取



締役、宮原道浩大林道路執行役員東北支店長、添田彰双葉中央アスコン所長ら関係者42人が参列した。あいさつに立った川中取締役は「アスファルト合材の製造と竣工した破砕施設による産業廃棄物の中間処理事業で地域の復興に貢献していく」と抱負を述べたほか、宮原支店長は「稼働済みのアスファルトプラントと合わせて無事故・無災害を継続し、震災復興の一助となるよう業務に取り組み」と語った。

